

## 決議第3号

西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相を歪め、否定する発言に対する  
抗議決議

上記の議案を読谷村議会会議規則（昭和62年読谷村議会規則第1号）第14  
条第1項及び第2項の規定により提出します。

令和7年6月10日提出

読谷村議会議長 伊波 篤 殿

提出者

読谷村議会議員 大 城 友 誼

賛同者

読谷村議会議員 山 内 政 徳

読谷村議会議員 江 田 守 恭

読谷村議会議員 上 地 利 枝 子

読谷村議会議員 國 吉 雅 和

読谷村議会議員 長 濱 宗 則

## 西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相を歪め、否定する発言に対する 抗議決議

沖縄は戦後 80 年目を迎えた。1945 年 4 月 1 日、ここ読谷の地は、沖縄戦の上陸地点となり、一木一草が焼き尽くされるほどの激烈な艦砲にさらされた。

住民は砲弾と炎のなかを逃げ惑い、家族を失い、地域は壊滅的な打撃を受けた。その深い悲しみと傷痕は、今なお癒されることなく、村民の記憶と暮らしのなかに刻まれている。

そうした歴史的背景の中、令和 7 年 5 月 3 日、那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、自民党の西田昌司参議院議員は、「ひめゆりの塔」の展示を「歴史の書換え」と批判、更に「沖縄の場合には地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている」などと発言した。又、「要するに、日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり隊が死ぬことになった、そしてアメリカが入ってきて沖縄は解放された」という文脈で述べた。

これらの発言は、沖縄戦の実相を著しく歪め、戦没者や体験者の尊厳を踏みにじるものであり、特に上陸地点として甚大な被害を受けた読谷村の住民にとっては、深い怒りと悲しみを呼び起こすものである。

沖縄戦は、日本軍が本土決戦を遅らせるため沖縄を「本土防衛の盾」として持久戦を強い、結果的に県民の 4 人に 1 人が犠牲となった凄惨な歴史である。

旧制中学や師範学校の生徒を学徒隊として動員し、司令部の南部撤退によって住民を巻き込んだ激烈な地上戦が展開された。これは歴史的事実であり、沖縄県史や数多くの証言によって裏付けられている。

ひめゆり平和祈念資料館には、「戦争は、命あるあらゆるものを殺す。むごいものです。私たちは、一人ひとりの体験をとおして知った、戦争の実体を語り続けます」と展示されている。

西田議員は「TPO をわきまえるべきだった」と弁明しているが、発言の根幹部分については謝罪も撤回もしていない。西田議員に求められるのは、戦後 80 年を経ても癒えぬ戦争体験者や遺族の悲しみに真摯に向き合い、史実を正しく認識する姿勢である。

よって読谷村議会は、再び沖縄を戦場にさせない決意を新たにし、以下を強く要求する。

### 記

- 1 西田昌司参議院議員は、史実を否定・歪曲した発言を認め、謝罪の上、発言を撤回すること。
- 2 自由民主党は、西田議員に対し厳格な処分を行い、党として沖縄戦に対する

- 明確な歴史認識を示すこと。
- 3 同党は、歴史や戦争被害に対する無理解な発言の再発を防ぐため、党内教育体制を再構築すること。

上記のとおり決議する。

令和7年6月10日

沖縄県読谷村議会

宛先：参議院議員 西田昌司 自由民主党総裁 石破茂